

令和7(2025)年度 学修成果に関するアンケート 集計結果

〈実施状況〉

本アンケート調査は、教学IRの一貫として学生の学修成果に関する自己評価を把握し、今後の教育内容を検討する際の一つの資料とすることを主な目的としている。

令和7（2025）年度においては、卒業証書・学位記授与式の出欠確認時に、Googleフォームにて回収した。

調査対象は、令和7(2024)年度卒業者645人、内590人から回答を得ることができ、回収率は91.5%となった。卒業証書・学位記授与式の出欠と併せて取ったこと、Googleフォームにて回収をしたことにより、回収率が上がったといえる。また、紙の際に発生していた未回答の設問があることについても解消された。

特定の選択肢のみで回答するケースが散見されることから、回答内容の制度向上については今後も検討を進めていく。

本アンケートは学修成果に関する学生の自己評価を把握するためのものだが、アセスメントプランに基づき、教学マネジメントを推進するため、大学全体（機関）レベル、専攻（教育課程、学位プログラム）レベル、授業科目レベルそれぞれにおいて、学生の学修成果・教育成果にかかる情報の把握・可視化に使用する。

〈集計結果〉

対象者：645人 ／ 回答者：590人 ／ 回収率：91.5%

※所属別回収率

〔地域共創学群〕

経済学：91.7% 、経営学：88.4% 、法学：98.6% 、英語：96.2% 、
ロシア語：75.0% 、歴史文化：94.9% 、日本語・日本文化：92.2% 、
スポーツ文化：86.3% 、リベラルアーツ：89.6%

〈設問別集計結果〉

設問はディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに関連する13問で構成し、回答選択肢はa～dの4段階に設定した。評価点は、a=4点、b=3点、c=2点、d=1点として算出した平均点である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2024	2.95	2.78	2.84	3.04	3.05	2.93	3.03	3.02	3.19
2025	2.95	2.86	2.85	3.12	3.08	3.01	3.08	3.08	3.25
前年度 比較	0	+0.08	+0.01	+0.08	+0.03	+0.08	+0.05	+0.06	+0.06

	10(1)	10(2)	10(3)	10(4)	平均
2024	3.14	3.22	3.24	2.82	3.02
2025	3.22	3.29	3.26	2.96	3.08
前年度 比較	+0.08	+0.07	+0.02	+0.14	+0.06

全体平均が前年度の3.02から3.10へ向上し、13項目中12項目で評価が上昇するなど、本学の教育活動に対する学生の自己評価は総じて改善傾向が見られた。特に、専門分野における知識・技能の修得や教育カリキュラムへの満足度は高く、学生が専門教育を通じて学修成果を実感していることがうかがえる。また、設問9「他者を尊重し、多様な価値を認めることができる」とする設問では最も高い評価が得られ、本学が目指す人格形成や地域共創を支える資質・能力の育成について、一定の成果が表れていると考えられる。

一方で、基盤教育における語学力や社会人としての基礎知識に関する設問（設問2、設問3）は、他の項目と比較すると評価がやや低く、基盤教育の内容や学びが卒業時まで実感できるよう、更なる充実を図る必要がある。また、アクティブラーニングに関する評価（設問10（4））は前年度から大きく改善したものの、他のカリキュラム満足度と比べると依然として低い水準であることから、学生が主体的な学びをより実感できる授業設計や学修環境の整備について継続的な検証が求められる。

今後は、本アンケート結果に加え、アセスメントテストや卒業生アンケート等の結果も併せて分析することで、学修成果を多面的に把握し、教学マネジメントの改善につなげていくことが重要である。また、教育内容・教育方法の継続的な点検・改善を通じて、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの実現に向けた教育の質保証を一層推進していく必要がある。

※ 設問別および所属別の回答状況については、「集計データ」を参照。

【設問1】（回答人数：590人）

基盤教育科目の学修を通じて、一般的な教養が身についたと思いますか。（CP2）

選択肢：a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 170人（28.8%） b 267人（45.3%） c 109人（18.5%） d 44人（7.5%）〉

aとbの回答者が74.1%となり、評価点は2.95点であった。本学は主体的に学ぶことができる人材の育成のため、それぞれの学位の基盤となる幅広い総合的教養教育を重要視しており、それらを基盤教育科目として1年次を中心に展開している。学生の自己評価は比較的高く、基盤教育の成果が表れたと思われる。内容の具体性や実用性を高める工夫が今後の課題といえる。

【設問2】（回答人数：590人）

基盤教育科目の学修を通じて、基礎的な語学力が身についたと思いますか。（CP2）

選択肢：a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 161人（27.3%） b 245人（41.5%） c 124人（21.0%） d 60人（10.2%）〉

aとbの回答者が68.8%、評価点は2.86点であった。一定の成果が見られるが、教養に比べてやや低い評価である。基盤教育科目では英語、ロシア語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語の6言語を開講しており、段階的に学べるよう配置されている。外国語の学修は学問に対する基本的な姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させる上で重要な位置づけとなっていることから、1言語4単位（2024年度入学生は1言語8単位）の修得を卒業要件としている。実質的には1年時の必修科目となっており、卒業時の学生の評価を高めるためにも、語学教育の充実に向け、更に検討を進める必要がある。

【設問3】（回答人数：590人）

基盤教育科目の学修を通じて、社会人としての基礎知識が身についたと思いますか。

（C P 2）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 151人（25.6%） b 257人（43.6%） c 126人（21.4%） d 56人（9.5%）〉

aとbの回答者が69.2%、評価点は2.85点であった。全設問中最も学生の自己評価が低い数値であった。基盤教育科目におけるアクティブラーニング科目、現代教養基礎科目、専攻入門科目などを通じた学修に一定の成果が見られるが、今後は実社会とのつながりをより意識した授業設計や、修得した知識が卒業後の社会で活用出来ているか、卒業生アンケートの結果等も確認し、より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について検証を進める必要がある。

【設問4】（回答人数：590人）

専攻の学びを通じて、専門分野について理解を深め、必要な知識と技能が身についたと思いますか。

（D P 1）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 211人（35.8%） b 259人（43.9%） c 97人（16.4%） d 23人（3.9%）〉

【設問5】（回答対象人数：567人 回答人数：567人）

※設問4で、a・b・cのいずれかを選択した方にお聞きします。

修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができるようになったと思いますか。（D P 4）

選択肢： a とても思う b 思う c 少し思う d あまり思わない

〈a 189人（33.3%） b 250人（44.1%） c 115人（20.3%） d 13人（2.3%）〉

設問4ではaとbの回答者が79.7%、評価点は3.12点と学生の自己評価は高い。各専攻の教育課程には主専攻の深い専門性を担保する科目を配置しており、基礎から応用まで段階的に学び、しっかりと専門的知識を蓄積することが出来ていると評価できる。基盤教育科目において専門分野の学修に向けた基礎を構築していることも要因の一つと考えられる。

設問5ではaとbの回答者が77.4%、評価点は3.08点となった。設問4のとおり、しっかりと専門的知識を蓄積することが出来ている学生について、少し思うも含め97.7%の学生が修得した知識・技能をよりよい解決策を見いだすことが出来ると感じている。

【設問6】（回答人数：590人）

自専攻の学修に関連する他分野についての知識と技能が身についたと思いますか。（D P 2）

選択肢： a とても身についた b 身についた c 少し身についた d あまり変わらない

〈a 179人（30.3%） b 272人（46.1%） c 106人（18.0%） d 33人（5.6%）〉

a と b の回答者が 76.4%、評価点は 3.01点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となった。本学の一学群制の学びの可能性を活かし、専攻にとどまらないオリジナルの学びを設計することが出来た学生が一定数存在すると考えられる。多くの学生に、本学の多様な学びを実感してもらい、より高い評価を得られるよう、教育内容や方法について継続的な検証が必要である。

【設問 7】（回答人数：590 人）

必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できるようになったと思いますか。（D P 3）

選択肢： a とても思う b 思う c 少し思う d あまり変わらない

〈a 198 人（33.6%） b 266 人（45.1%） c 100 人（16.9%） d 26 人（4.4%）〉

a と b の回答者が 78.7%、評価点は 3.08点となった。学生の自己評価は概ね高い数値となった。より高い評価を得られるよう、実践的な課題や演習を取り入れた授業設計の検討、および教育内容・方法の検証が必要である。

【設問 8】（回答人数：590 人）

未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができるようになったと思いますか。（D P 5）

選択肢： a とても思う b 思う c 少し思う d あまり思わない

〈a 211 人（35.8%） b 251 人（42.5%） c 90 人（15.3%） d 38 人（6.4%）〉

a と b の回答者が 78.3%、評価点は 3.08点となり、学生の自己評価は高い数値となり、主体性や意欲の面で一定の成長がうかがえる。今後はアセスメントテストの結果等も確認し、より高い評価を得られるよう、挑戦的な課題設定や成功体験を促す支援、および教育内容・方法について検証を進める必要がある。

【設問 9】（回答人数：590 人）

他者を尊重し、多様な価値を認めることができるようになったと思いますか。（D P 6）

選択肢： a とても思う b 思う c 少し思う d あまり思わない

〈a 250 人（42.4%） b 258 人（43.7%） c 63 人（10.7%） d 19 人（3.2%）〉

a と b の回答者が 86.1%、評価点は 3.25 点となり、学生の自己評価は概ね高い数値となった。人格的成長や多様性理解の面で教育効果が強く現れていると考える。今後はアセスメントテストの結果等も確認し、より高い評価を得られるよう、対話や協働を促す機会の充実、および教育内容・方法の検証が必要である。

【設問 10】 本学の教育カリキュラムについてお聞きします。（回答人数：590 人）

(1) 基盤教育科目を通じた多様な学びについて満足しましたか。（C P 1、2）

選択肢： a とても満足 b 満足 c やや不満 d 不満

〈a 199 人（33.7%） b 335 人（56.8%） c 45 人（7.6%） d 11 人（1.9%）〉

a と b の回答者が 90.5%、評価点は 3.22 点となり、学生の満足度は概ね高い数値となった。今後

は内容の幅や難易度、個々の興味関心への対応といった点で、引き続き教育内容の精査と改善が求められると考える。

【設問10】 本学の教育カリキュラムについてお聞きします。（回答人数：590人）

(2) 専門科目の学びについて満足しましたか。（CP1、3）

選択肢： aとても満足 b満足 cやや不満 d不満

〈a 228人(38.6%) b 313人(53.1%) c 39人(6.6%) d 10人(1.7%)〉

aとbの回答者が91.7%、評価点は3.29点となり、学生の満足度は高い数値となり、評価点としては1番に高い結果となった。教育カリキュラムの中核である専門教育が学生にとって充実した学びの機会となっていることがうかがえる。一方で、不満層(c・d)は8.3%と少数ながら存在しており、専門性の深度や指導方法の個別性など、さらなる質的向上に向けた検討が求められると考える。

【設問10】 本学の教育カリキュラムについてお聞きします。（回答人数：644人）

(3) 自専攻専門科目だけでなく、他専攻専門科目も広く横断的に選択できるカリキュラムについて、満足しましたか。（CP3）

選択肢： aとても満足 b満足 cやや不満 d不満

〈a 220人(37.3%) b 317人(53.7%) c 42人(7.1%) d 11人(1.9%)〉

aとbの回答者が91.0%、評価点は3.26点となり、学生の満足度は概ね高い数値となった。多様な学びの機会に対して学生の満足度が高いことが示された。特に「とても満足」が3割を超えており、一定の評価を得ている。一方で、不満を抱く学生も一定数存在することから、今後は他専攻科目に関する情報提供の充実など運用面の改善も今後の課題となる。

【設問10】 本学の教育カリキュラムについてお聞きします。（回答人数：590人）

(4) アクティブラーニングが十分に取り入れられていましたか。（CP4）

選択肢： aとても思う b思う c少し思う dあまり思わない

〈a 167人(28.3%) b 272人(46.1%) c 112人(19.0%) d 39人(6.6%)〉

aとbの回答者が74.4%、評価点は2.96点となり、学生の満足度は概ね高い数値ではあるものの、他の設問と比較するとやや低調である。このことから、授業におけるアクティブラーニングの取り組みが、学生にとって「主体的な学び」として十分に認識されていない可能性が示唆される。今後は、学生が学びの当事者として積極的に関与できる授業設計や、アクティブラーニングの質的向上および学修環境の整備に取り組んでいく必要があると考える。

〈参考〉

「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」

建学の精神「生気あふれる開拓者精神」のもと、「地域共創」の理念を体現し、教育目標に謳われる「生気に溢れ、知性豊かな、信頼される人間」に成長し、以下に掲げる資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

D P 1：専門分野について理解を深め、必要な知識と技能を身につけている

D P 2：関連する分野についての知識と技能を身につけている

D P 3：必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できる

D P 4：修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができる

D P 5：未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができる

D P 6：他者を尊重し、多様な価値を認めることができる

「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」

学位授与の方針を踏まえ、自由な学びを通じて主体性を育み、総合的な教養を涵養するために、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

なお、単位認定にあたっては成績評価基準に基づく厳格な評価を行います。

C P 1：全学共通の基盤教育科目と全学に開放された専門科目を設置し、多様な学びを提供します。

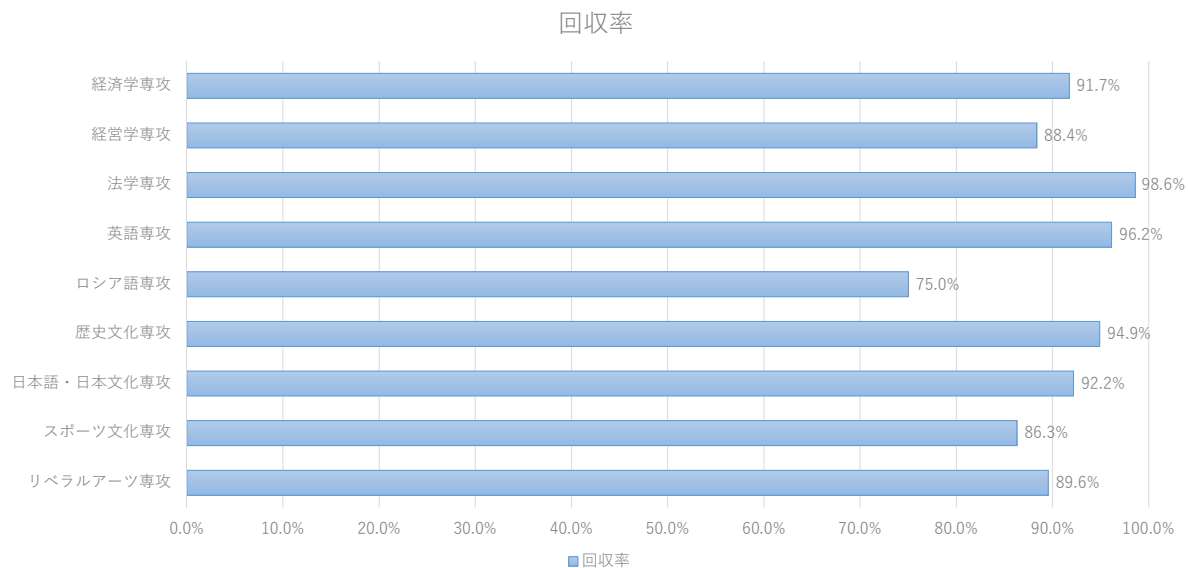
C P 2：基盤教育科目では、豊かな教養とグローバル世界に対応できる語学力、社会人としての基礎知識を身につけるための科目を配置します。

C P 3：専門科目では、主専攻の深い専門性を担保する科目を配置すると共に、副専攻をも視野に入れた専攻の枠にとらわれない科目群を提供します。

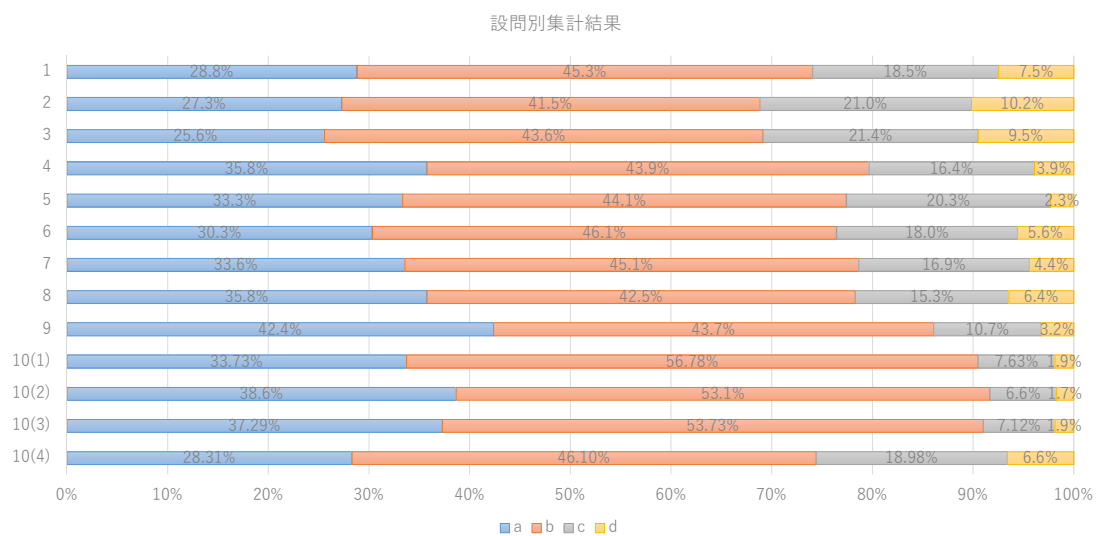
C P 4：地域を共に創造する「地域共創」の理念を、自ら考え行動し体験知として身につけるため、アクティブラーニングを重視します。

集計結果（グラフ）

1. 回収率

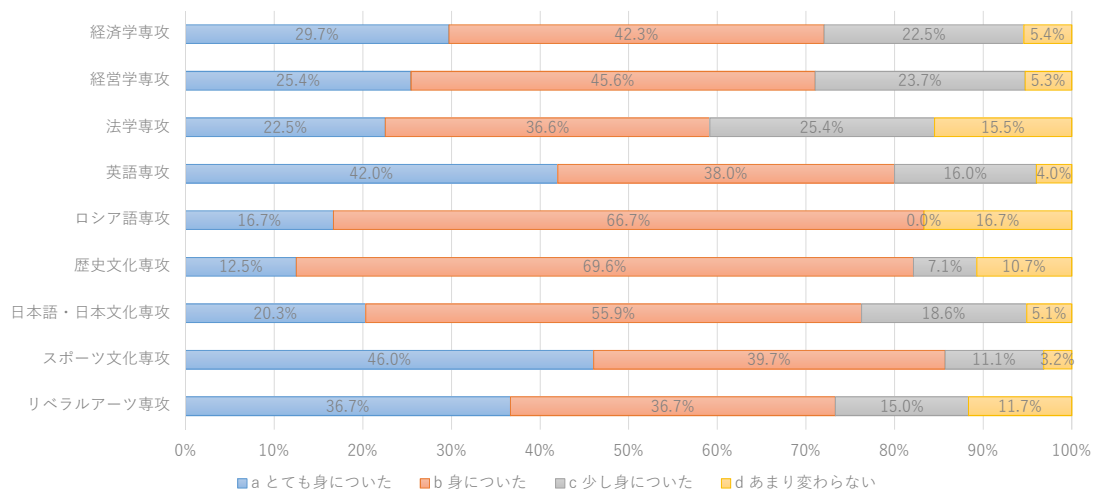


2. 集計結果

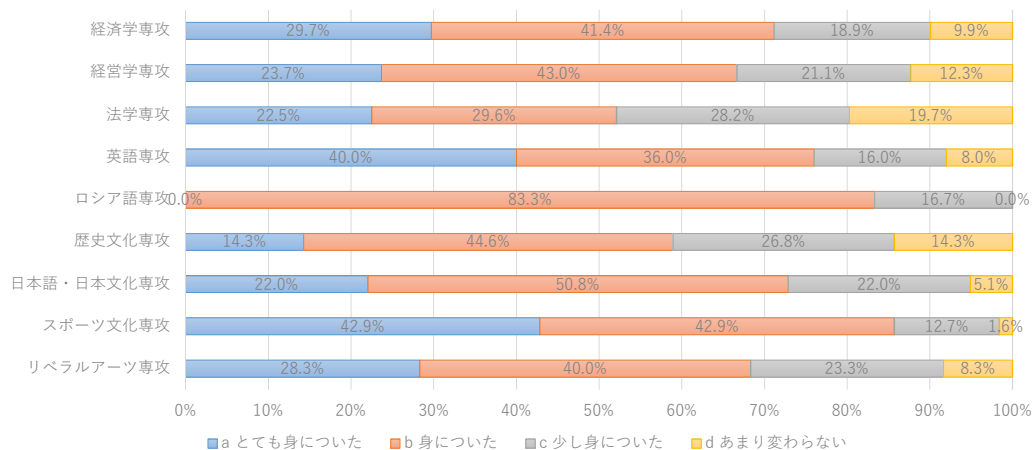


2. 集計結果（1）設問別

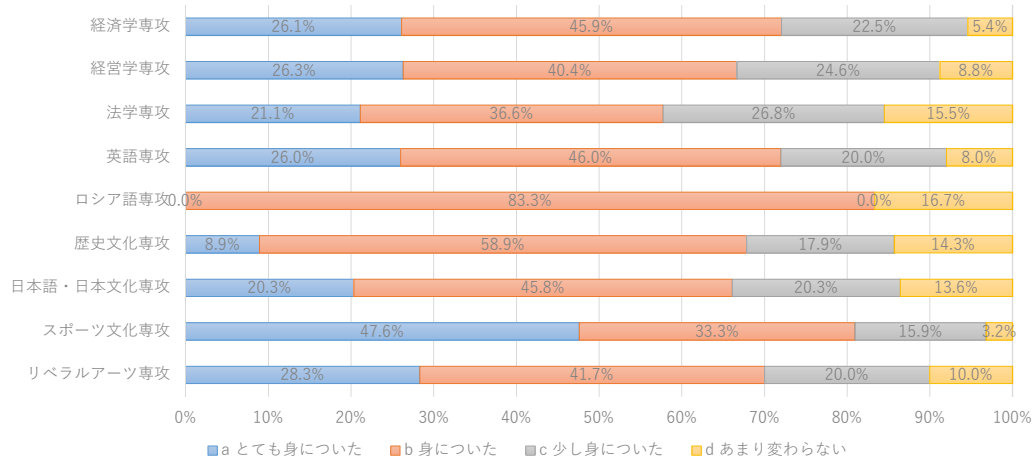
設問1 基盤教育科目の学修を通じて、一般的な教養が身についたと思いますか。（CP2）



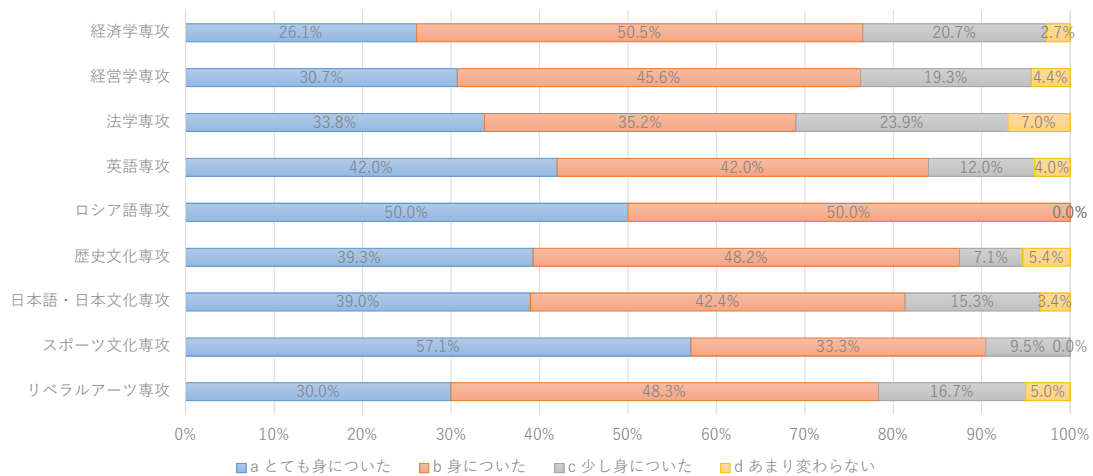
設問2 基盤教育科目の学修を通じて、基礎的な語学力が身についたと思いますか。（CP2）



設問3 基盤教育科目の学修を通じて、社会人としての基礎知識が身についたと思いますか。
(CP2)

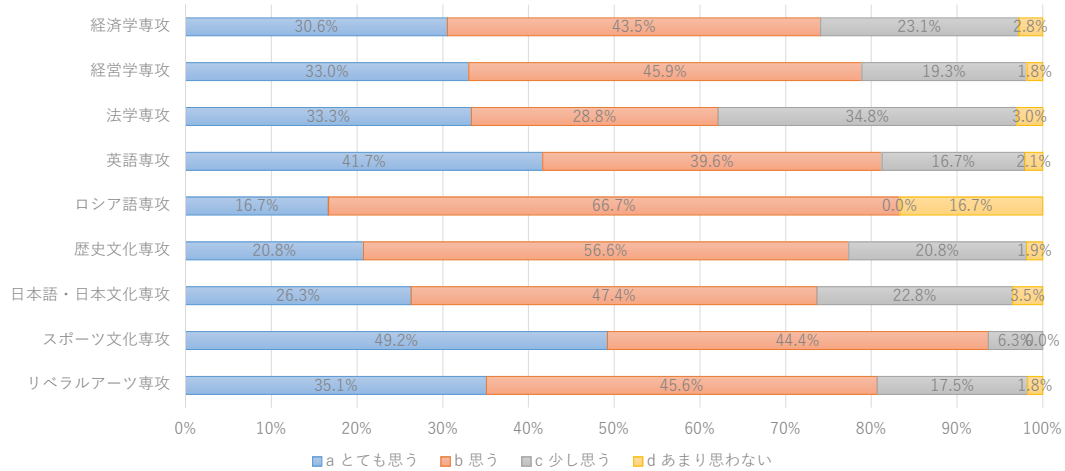


設問4 専攻の学びを通じて、専門分野について理解を深め、必要な知識と技能が身についたと思いますか。(DP1)

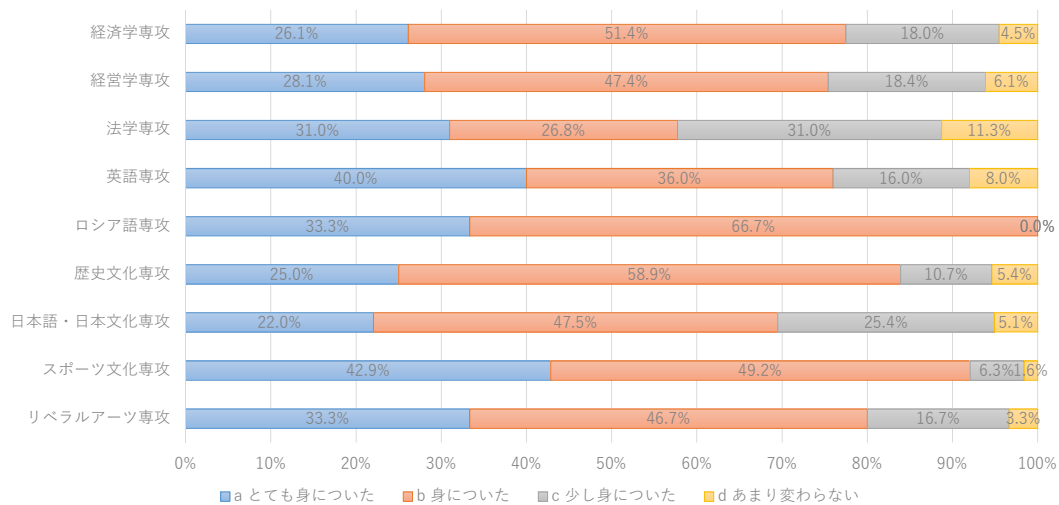


※設問4で a・b・c のいずれかを選択した方にお聞きます。

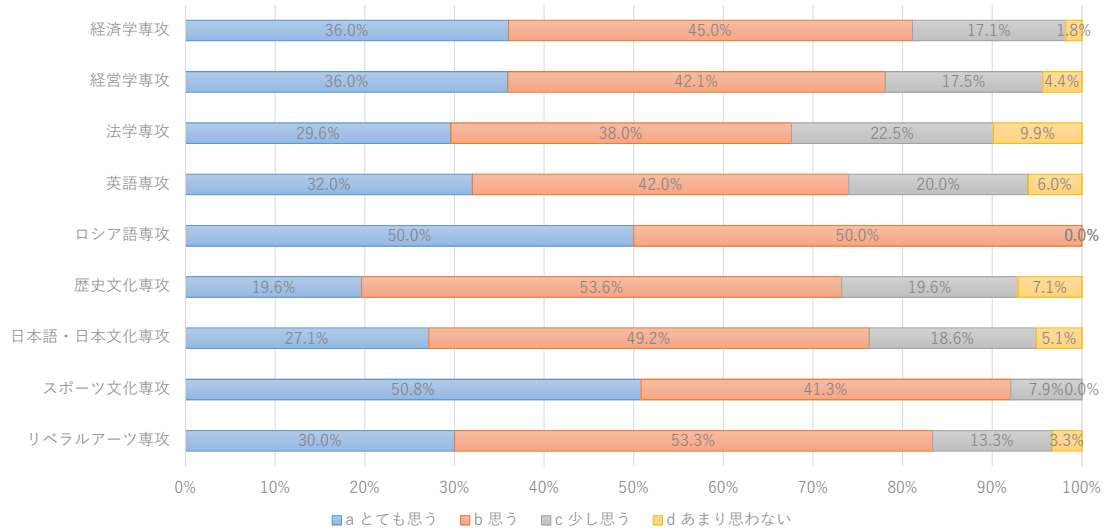
設問5 修得した知識や技能をもとに、よりよい解決策を見いだすことができるようになったと思いますか。(DP4)



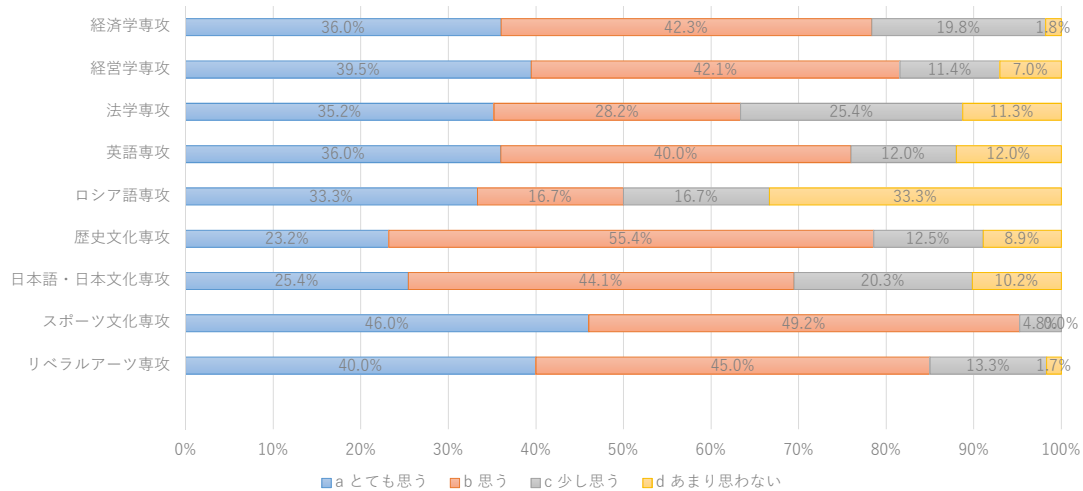
設問6 自専攻の学修に関連する他分野についての知識と技能が身についたと思いますか。(DP2)



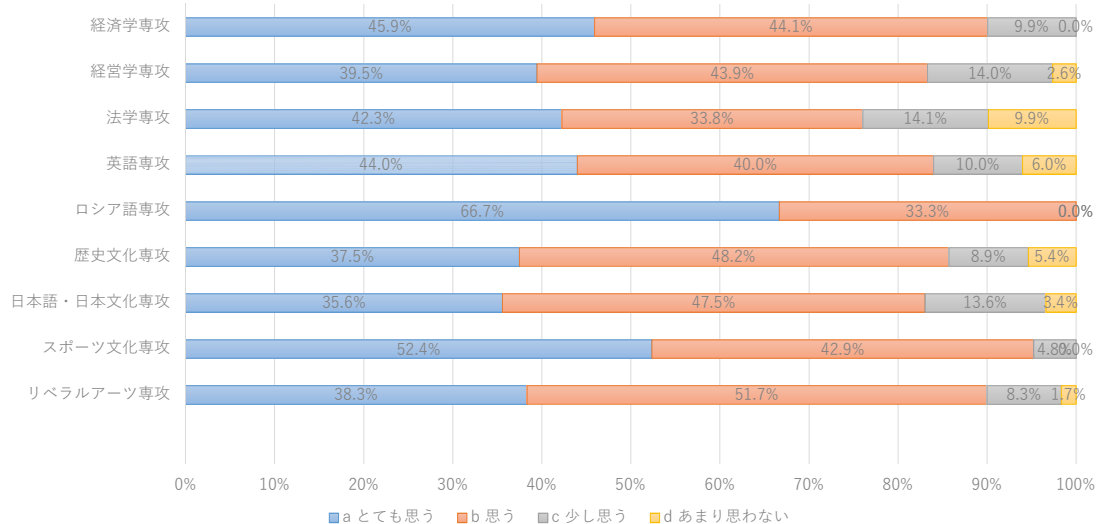
設問7 必要な情報を収集し、客観的に正しく評価できるようになったと思いますか。(DP3)



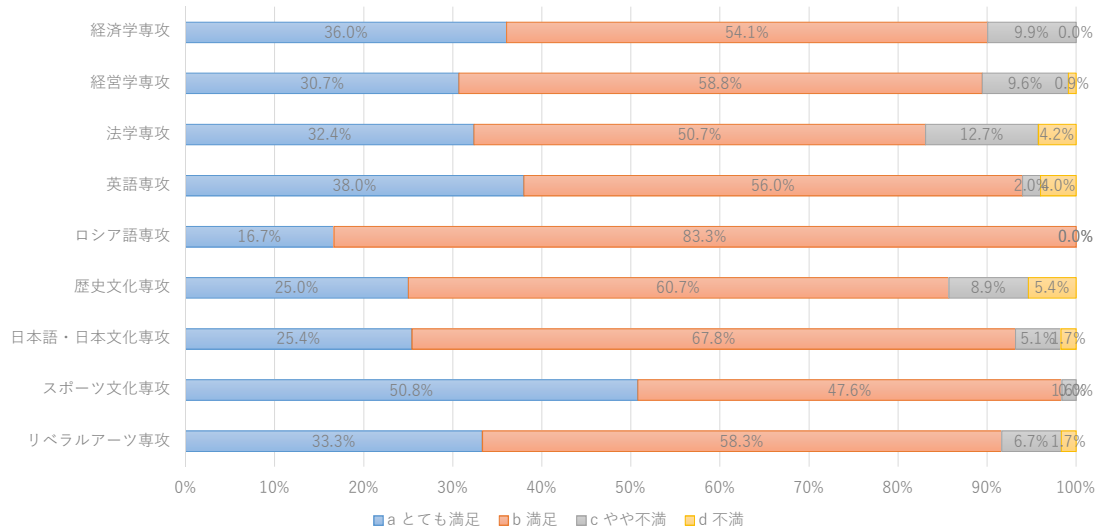
設問8 未知のものに挑戦し、粘り強くやりぬくことができたようになりますか。(DP5)



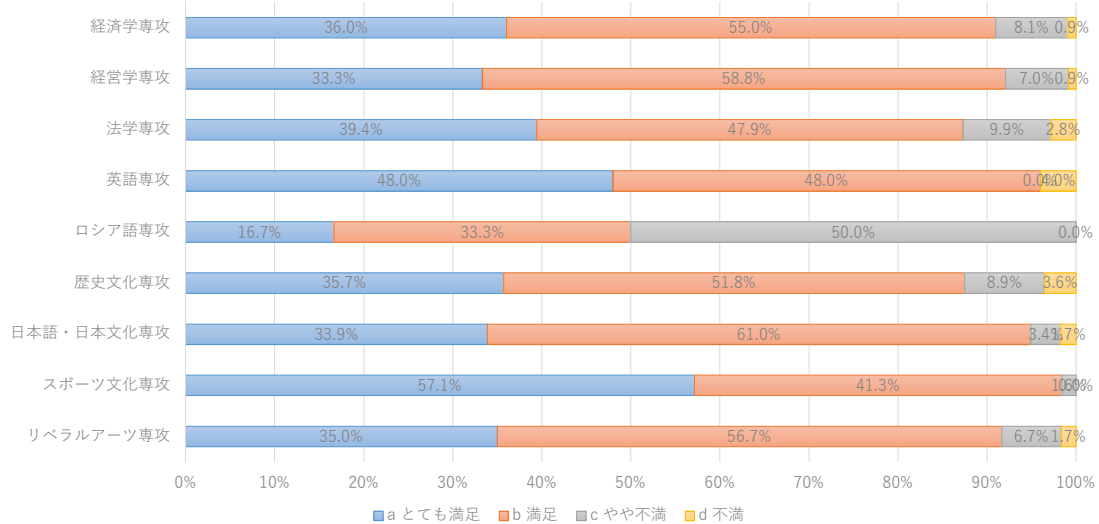
設問9 他者を尊重し、多様な価値を認めることができるようになったと思いますか。(DP6)



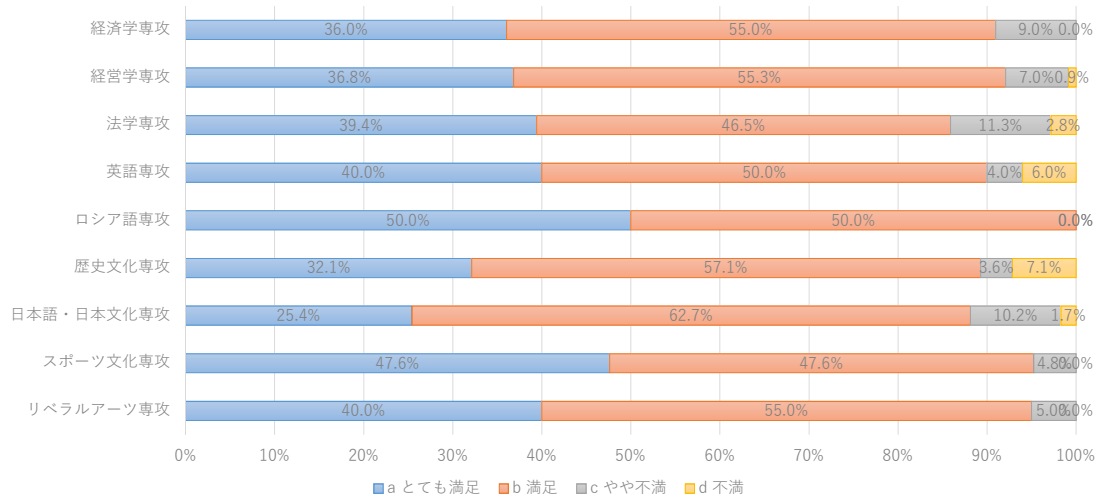
設問10(1) 基盤教育科目を通じた多様な学びについて満足しましたか。(CP1、2)



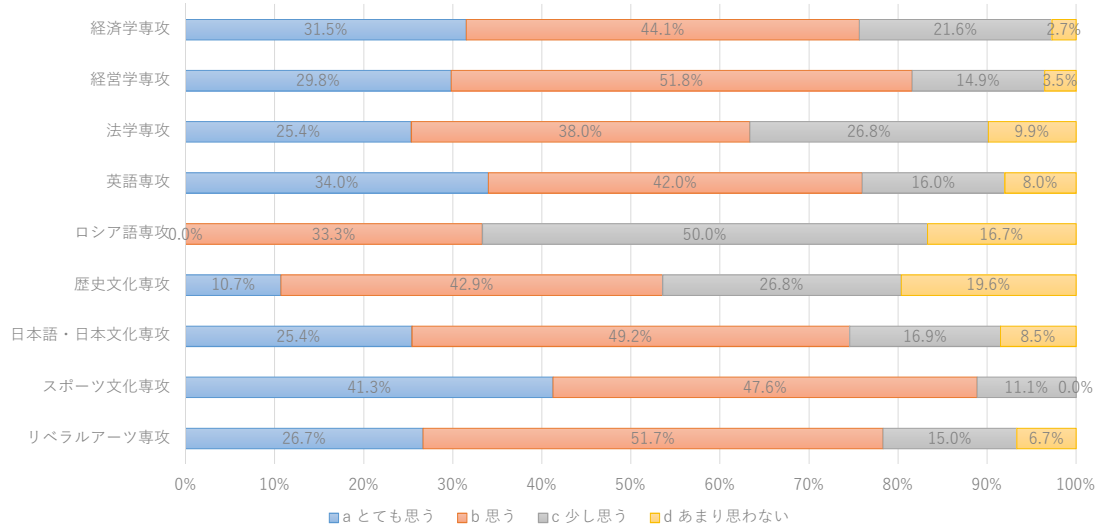
設問10(2) 専門科目の学びについて満足しましたか。(C P 1、3)



設問10(3) 自専攻専門科目だけでなく、他専攻専門科目も広く横断的に選択できるカリキュラムについて、満足しましたか。(C P 3)

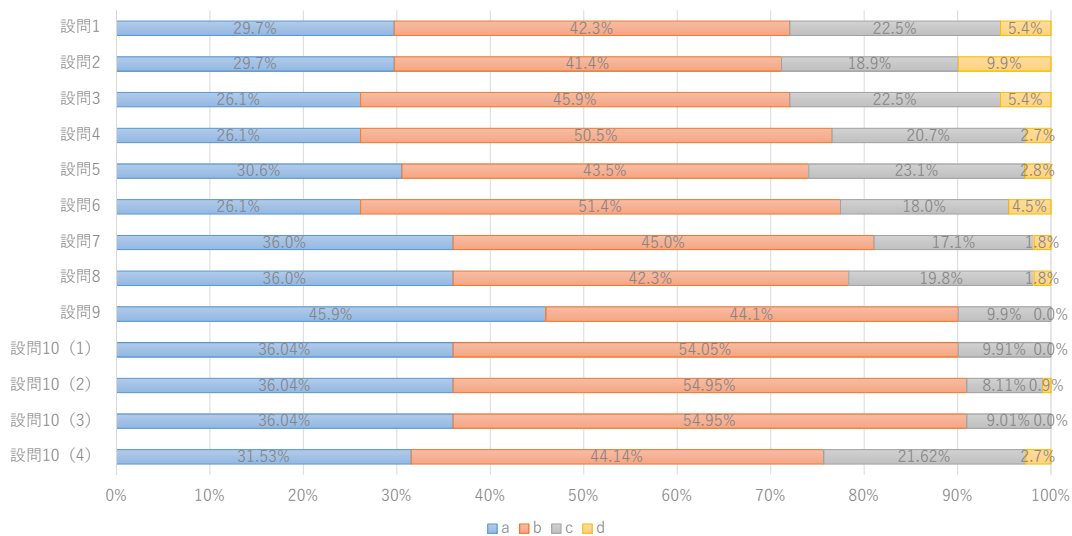


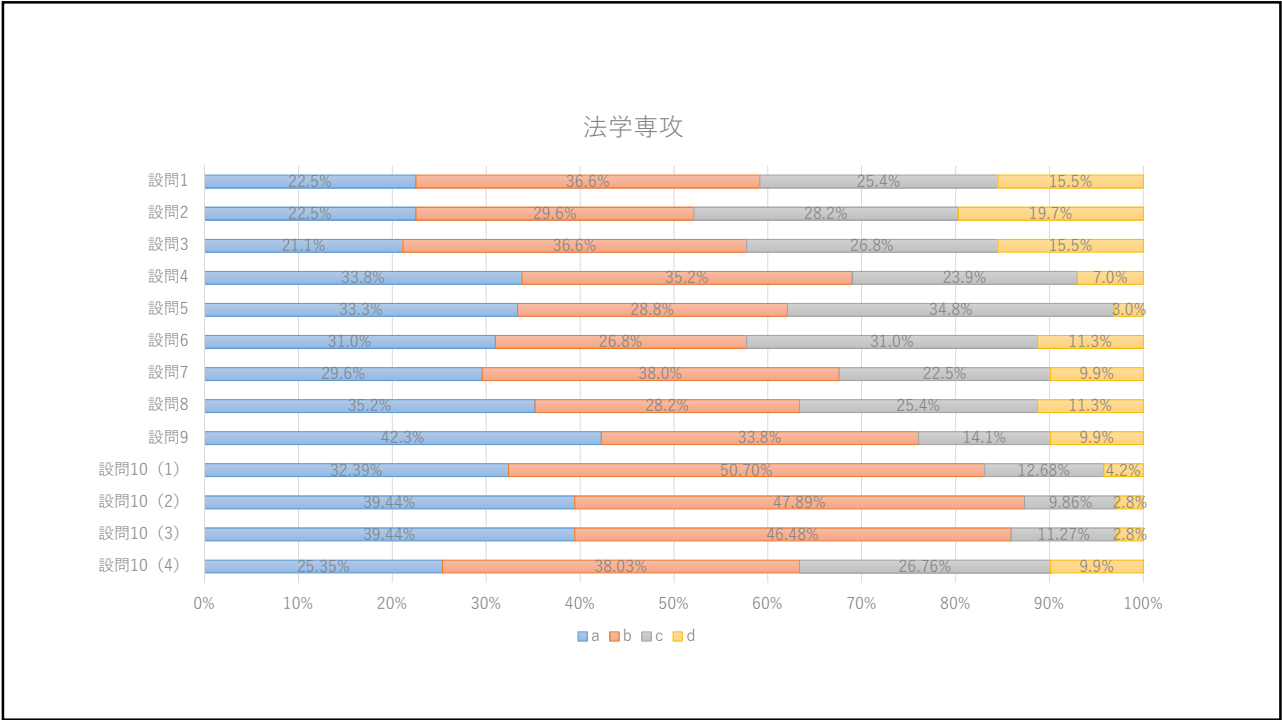
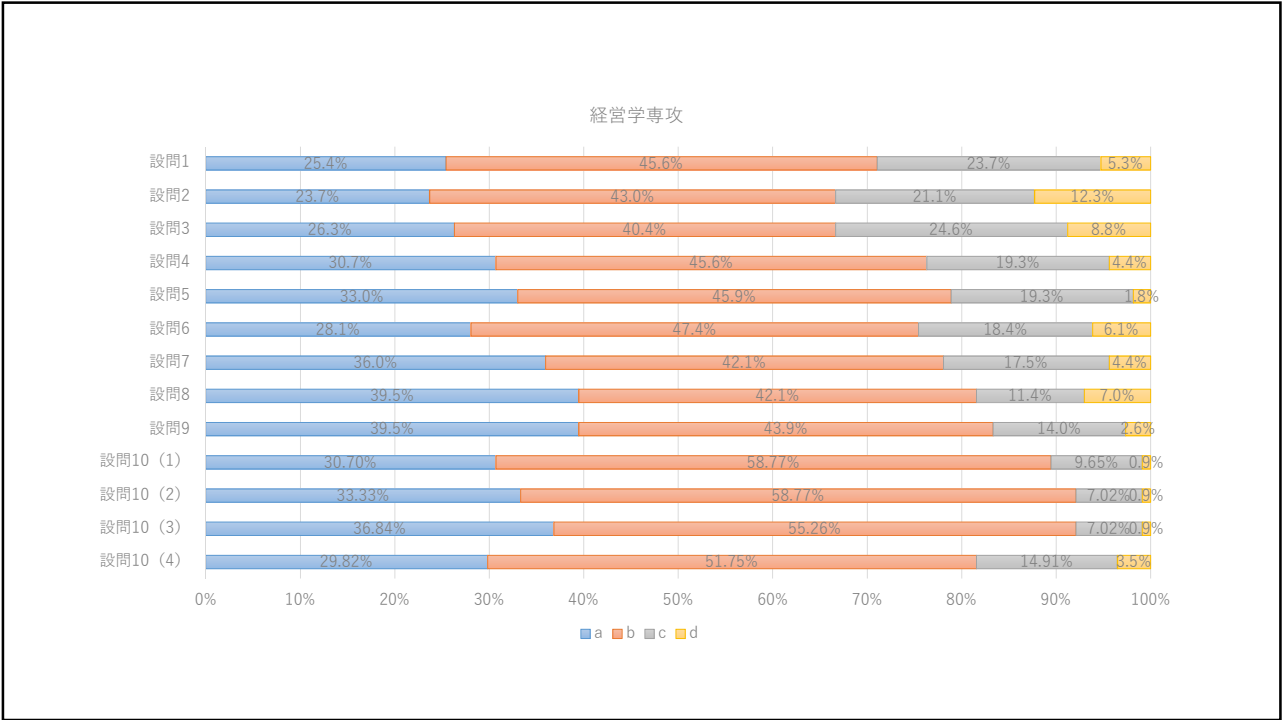
設問10(4) アクティブラーニングが十分に取り入れられていましたか。(C P 4)

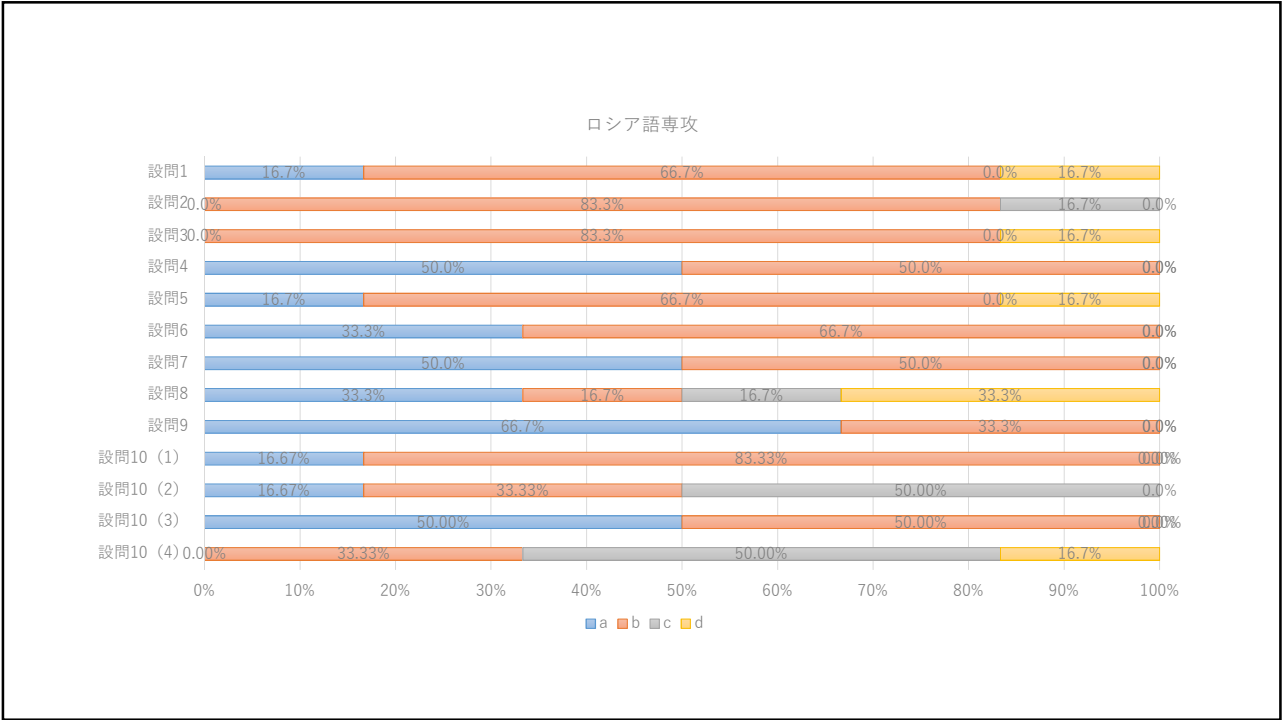
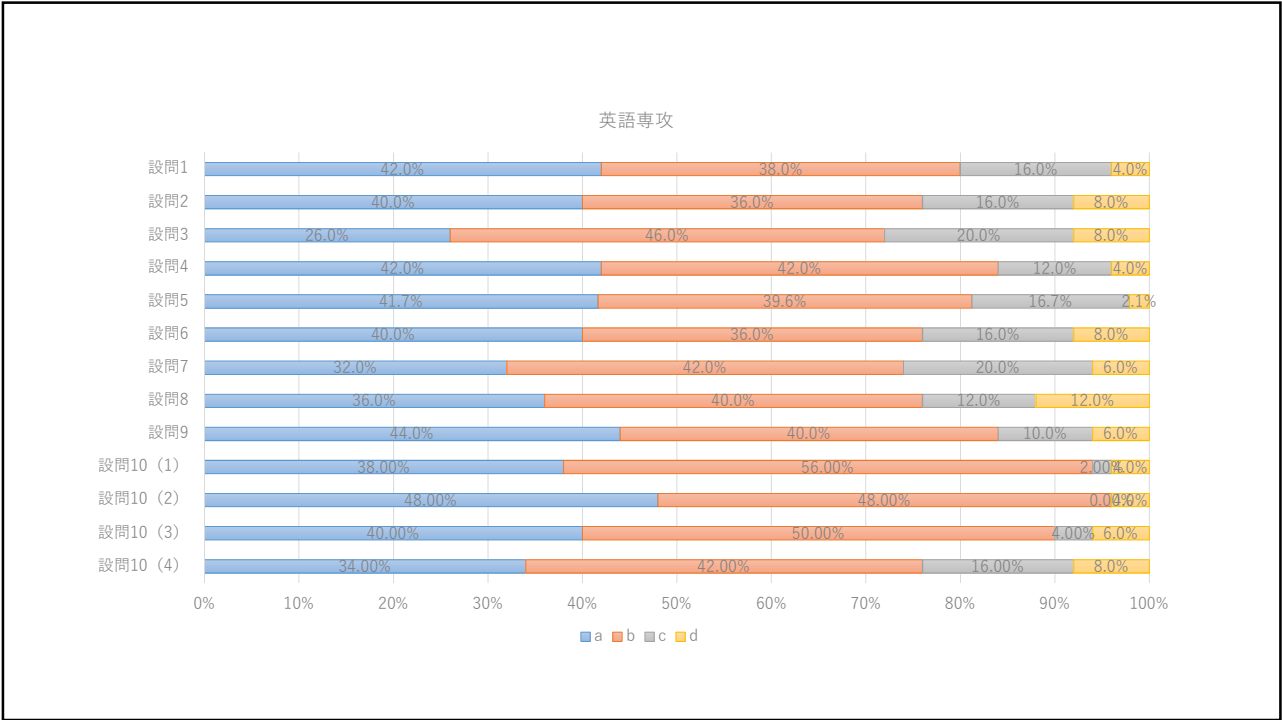


(2) 専攻別

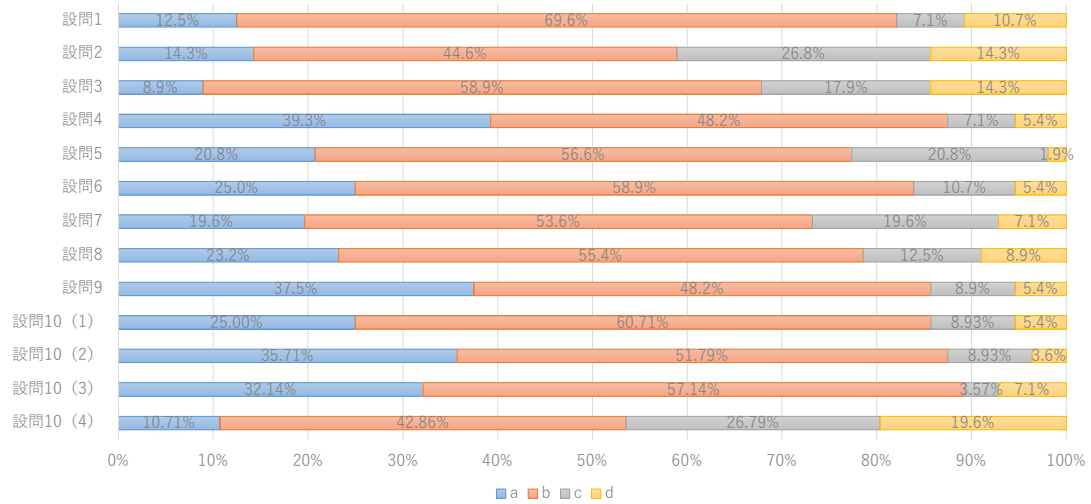
経済学専攻



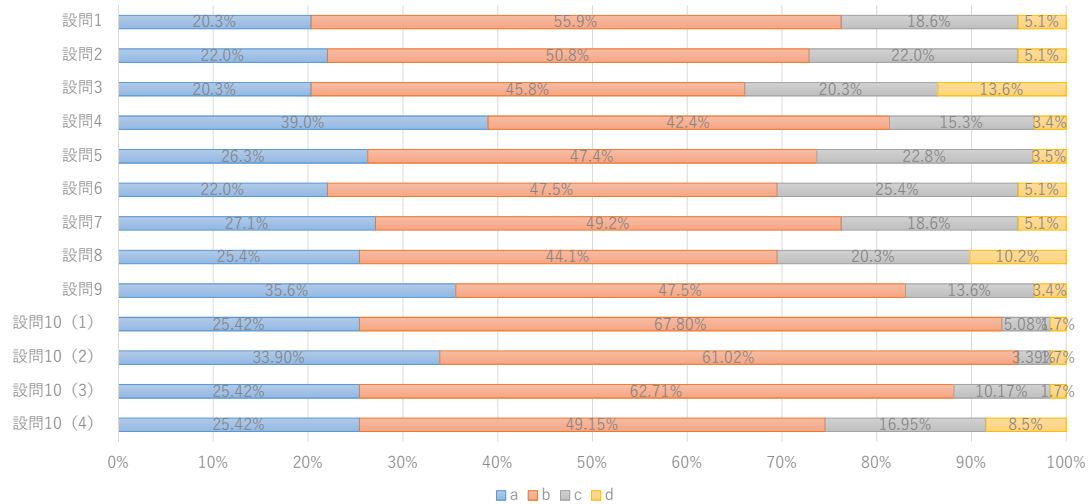




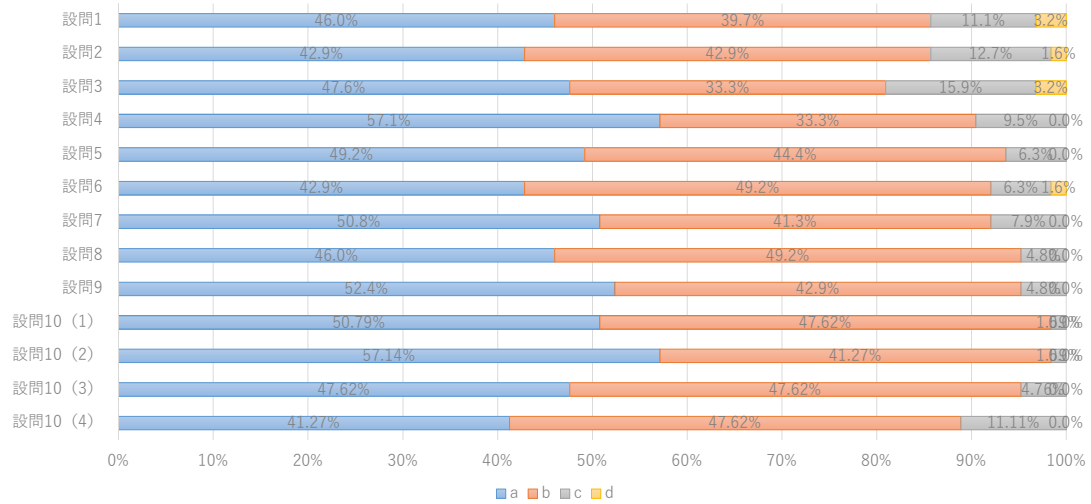
歴史文化専攻



日本語・日本文化専攻



スポーツ文化専攻



リベラルアーツ専攻

